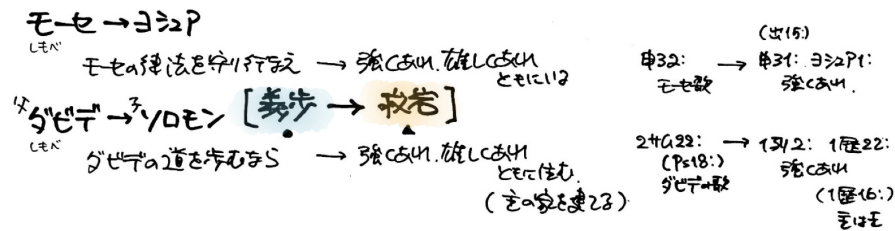
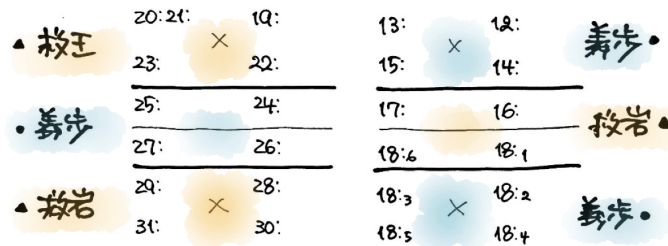




詩篇第一卷
詩篇12-31篇

詩12-18/19-31

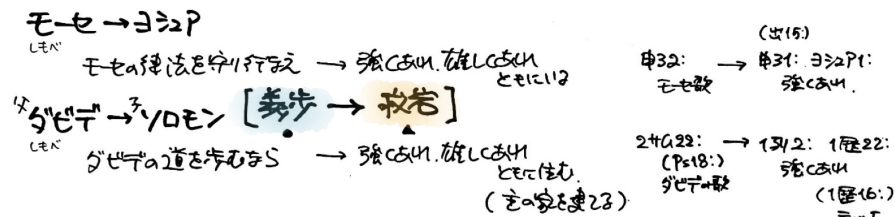
2017.10.24



詩篇第1巻の第2集と3集、12編から18篇と19編から31篇。この2つの大きな詩集です。この関係を見えています。2012年の時にもいろんな区分をしました。分けているこの分け方の形は良いと思いますが、ただどういう区別になっているのか、わかっているようでわかっていないという感じでしたので、もう一度見直しています。

前回もこういうつながり、外側と中側、外側と中側というつながりを考えていました。それをどうかなということ確かめて今回こんな感じです。外側と中側、外側と中側ということで、12から15と24から27、18の真ん中の4つ、これが似ているもの。19から23と16から18の頭とおしり、それと28から31が似ているものというようにクロスしているのではないかなということです。

では、そのクロスしている2つは何だろうということですが、「義しく歩む」ということと、「救い主なる王、救い主なる岩」、王が救う、岩が救うというということ。その王様なのですけれど本当は、義しい者が主の命令を守って歩むというこの2つが区別なのだろうということです。



それはモーセがヨシュアに、ダビデがソロモンに。主がヨシュアに言う「モーセの律法を守り行なうなら、私はともにいる。強くあれ。雄々しくあれ。」というように言います。ダビデにも同じことをソロモンに言うのですよね。「強くあれ。雄々しくあれ。」と。「強くあれ。雄々しくあれ。」が27と31の終わりの言い方になっています。

モーセがヨシュアに言う「強くあれ、雄々しくあれ。」の箇所は、申命記31章、ここでまず一度「強くあれ、雄々しくあれ。あなたとともにいますということはこの箇所と言います。このみ教えのすべてを守り行なうためなのです。これは、主の選ぶ場所に行きます。それで、ヨシュア記(1章)のところで、「強くあれ、雄々しくあれ、モーセが命じたすべての律法を守り行なうなら、右にも左にもそれないで歩みなさい。そうすると栄えます。主はどこでもあなたとともにいます」というようにこの箇所と言います。

このモーセがヨシュアに言った相続の言葉とダビデが主の宮の場所、一つのことを主に願ったという27篇のところ。主の家を建てたいというように言った時に、あなたではなくてソロモンですと言われた第1歴代誌の22章(13節から)のところに、「モーセに命じられたおきてと定めをあなたが守り行なうなら、あなたは栄える。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。…主があなたとともにおられるように。」ということでソロモンに命じます。そして、ソロモンはその命令のとおり知恵を与えられ、神殿を建てます。

神殿を建てている時に(第2歴代誌7章11節から)神様は現れて、その祈りを聞きました。天から聞いてみ顔を慕い求める者の祈りを聞いて答えます。(17節から)「あなたの父ダビデが歩んだようにわたしの前に歩み、わたしがあなたに命じたことをすべてそのまま実行し、わたしのおきてと定めとを守るなら、王座は確立する。」ということと言います。

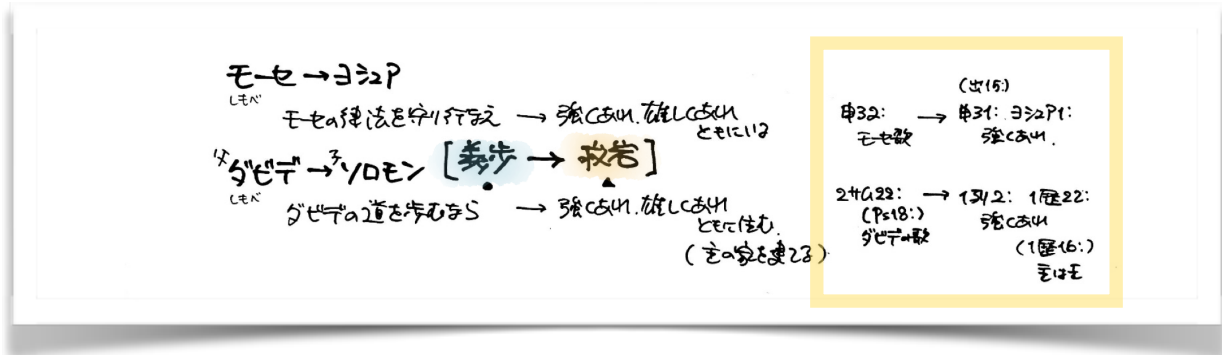
ですから、しもべモーセが祈って、ヨシュアが後継者として与えられる。その父であるモーセの歩みと同じように歩むなら、モーセとともにいたようにあなたとともにいます。

父ダビデの道に歩むなら、父ダビデと同じようにともにいてソロモンとともにいますということなのですが、こここのところ(ともにいる)がちょっと違っていています。ともにいるのですが、もっとともにいるのです。それは、モーセとともにいると言った時には、天幕にいてまだ仮の家だったのですが、ソロモンの時には岩の上に家が建てられます。

ここ左下図にあります。ノアとアブラハムの時に地球が戻ってくる。モーセとヨシュアの時に国が上がる。ダビデとソロモンの時に神殿ができます。モーセとヨシュア、ダビデとソロモンはそういう意味では(それぞれ)国ができます、神殿ができますということです。この主が、強くあれ、雄々しくあれ、主の王座が堅く建てられる、主の家が建てられる、ソロモンの王朝が堅く建てられるということは、主がともにいるというこ

とのもっと明らかなもの。ですから、契約の箱や幕屋よりももっと明らかに栄光があらわされているということです。

エジプトから出ることと、カナンに入るとはどちらも戦いがあります。ダビデはエジプトから連れ出すような働きをしているということだと思いますので、この18篇自体はエジプトから連れ出した神様のような言い方もたくさん出てきます。ソロモンが家を建てるというほうです。その戦いをしている、約束の地に入る、約束の家を建てるということです。



「モーセの歌」と「強くあれ」、ここは順番が逆になっています。申命記31章、32章。「強くあれ、雄々しくあれ」ここに列王記のところの「強くあれ、雄々しくあれ」の箇所があります。その前のところのダビデの歌ということで、18篇。18篇は第2サムエル22章にあります。モーセの歌が申命記32章。「強くあれ、雄々しくあれ」がヨシュアの1章。第1列王記の2章ということなので、こちらが前で次がこちらという順番で、似ているかなと思います。

そして、大きくこの義しく歩む、義しく父モーセ、しもべダビデの道を歩むなら、救いは確かにされる。王が与えられる、救いが確かな岩とされるという大きな流れで詩篇の構成がされているのではないかと考えています。